

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2004-536614 (P2004-536614A)

【公表日】平成 16 年 12 月 9 日 (2004.12.9)

【年通号数】公開・登録公報 2004-048

【出願番号】特願 2003-517208 (P2003-517208)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/02 (2006.01)

A 6 1 P 9/04 (2006.01)

A 6 1 P 9/06 (2006.01)

A 6 1 P 9/12 (2006.01)

C 1 2 N 9/16 (2006.01)

C 1 2 Q 1/44 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 7/02

A 6 1 P 9/04

A 6 1 P 9/06

A 6 1 P 9/12

C 1 2 N 9/16 C

C 1 2 Q 1/44

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 6 月 17 日 (2005.6.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配列番号 1、配列番号 2 または配列番号 3 と、少なくとも 95% 相同なアミノ酸配列からなる単離ポリペプチド。

【請求項 2】

配列番号 1 の配列と同一である、請求項 1 に記載の単離ポリペプチド。

【請求項 3】

配列番号 2 の配列と同一である、請求項 1 に記載の単離ポリペプチド。

【請求項 4】

配列番号 3 の配列と同一である、請求項 1 に記載の単離ポリペプチド。

【請求項 5】

配列番号 1 の配列を有し、セリン残基 292、293、312 または 438 位のうち少なくとも 1 つに置換変異を有する請求項 1 に記載の単離ポリペプチド。

【請求項 6】

前記置換変異によってセリン残基がアラニンまたはアスパラギン酸残基で置換されている、請求項 5 に記載の単離ポリペプチド。

【請求項 7】

配列番号 2 の配列を有し、セリン残基 3 1 2 または 4 3 8 位のうち少なくとも 1 つに置換変異を有する請求項 1 に記載の単離ポリペプチド。

【請求項 8】

前記置換変異によってセリン残基がアラニンまたはアスパラギン酸残基で置換されている、請求項 7 に記載の単離ポリペプチド。

【請求項 9】

ホスホジエステラーゼ・タイプ 3 のアイソフォームをコードしている核酸を含む発現ベクター。

【請求項 10】

前記アイソフォームが請求項 1 に記載の単離ポリペプチドである、請求項 9 に記載の発現ベクター。

【請求項 11】

前記アイソフォームが請求項 2 に記載の単離ポリペプチドである、請求項 9 に記載の発現ベクター。

【請求項 12】

前記アイソフォームが請求項 3 に記載の単離ポリペプチドである、請求項 9 に記載の発現ベクター。

【請求項 13】

前記アイソフォームが請求項 4 に記載の単離ポリペプチドである、請求項 9 に記載の発現ベクター。

【請求項 14】

前記アイソフォームが請求項 5 に記載の単離ポリペプチドである、請求項 9 に記載の発現ベクター。

【請求項 15】

前記アイソフォームが請求項 7 に記載の単離ポリペプチドである、請求項 9 に記載の発現ベクター。

【請求項 16】

アイソフォーム選択的なホスホジエステラーゼ・タイプ 3 (P D E 3) の阻害剤または活性化剤を同定する方法であって、

(a) 請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の単離ポリペプチドを得ること、

(b) 前記単離ポリペプチドに結合する少なくとも 1 つの試験化合物を同定すること、および

(c) P D E 3 の触媒活性の阻害または活性化について前記少なくとも 1 つの試験化合物をアッセイすることからなる方法。

【請求項 17】

前記少なくとも 1 つの試験化合物がファージ・ディスプレイ・ライブラリの一部である、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 18】

少なくとも 1 つの試験化合物の同定にバイオパニングすることが含まれる、請求項 17 に記載の方法。

【請求項 19】

前記ファージ・ディスプレイ・ライブラリが無作為なペプチド配列からなる、請求項 18 に記載の方法。

【請求項 20】

前記無作為なペプチド配列の長さが 3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14 または 15 アミノ酸である、請求項 19 に記載の方法。

【請求項 2 1】

アイソフォーム選択的な P D E 3 調節剤を同定する方法であって、

(a) 請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の単離ポリペプチドを得ること、

(b) 前記単離ポリペプチドに結合する少なくとも 1 つの試験化合物を同定すること、
および

(c) もう 1 つのポリペプチドが P D E 3 に結合することを妨げる能力について前記少なくとも 1 つの試験化合物をアッセイすること

からなる方法。

【請求項 2 2】

前記もう 1 つのポリペプチドがプロテイン・キナーゼ、ホスファターゼまたはホスホリラーゼである、請求項 2 1 に記載の方法。

【請求項 2 3】

アイソフォーム選択的な P D E 3 の阻害剤、活性化剤または調節剤を薬理学的に有効な量で個体に投与することからなる、心収縮性を変調する方法。

【請求項 2 4】

拡張型心筋症および / または高血圧症を患っている個体を処置する方法であって、アイソフォーム選択的な P D E 3 の阻害剤、活性化剤または調節剤を薬理学的に有効な量で該個体に投与することからなる方法。

【請求項 2 5】

前記阻害剤がアンチセンス阻害剤である、請求項 2 3 または 2 4 に記載の方法。

【請求項 2 6】

前記アンチセンス阻害剤がベクターから転写される、請求項 2 5 に記載の方法。